

キャリアス就活
[career+]

2023卒 理系学生の就職活動（専攻分野別）

2022年9月

株式会社ディスコ キャリタスリサーチ

調査概要

2023年卒の理系学生の就職活動に関する調査データの中から、主なものを抜粋し、4つの専攻分野（機械・電気系／情報系／土木・建築系／化学・農学・薬学系）、あるいは文系学生との比較を通して、特徴を分析した。

<目次>

1. 就職活動量（7月時点）
2. 企業探しに有益な情報源
3. 本選考に応募した企業の内訳
4. 面接形式
5. 初回内定時期
6. 就職先を決めて就活を終了した時期
7. 就職決定業界
8. 就職決定職種、専攻分野との関連
9. 就職決定企業への応募ルート、当初志望度
10. 就職決定企業で働きたいと思ったタイミング
11. 就職決定企業のインターンシップ等参加状況
12. 就職決定企業に決めた理由
13. 魅力を感じる採用形態
14. 就職活動の難易度

P 3
P 4
P 5
P 6
P 7
P 8
P 9
P10
P11
P12
P13
P14
P15
P16

<調査概要>

調査対象 : 2023年3月に卒業予定の理系大学生・大学院生
 サンプルング : キャリタス就活2023 学生モニター
 調査方法 : インターネット調査法

	第6回調査	第7回調査	第8回調査	第9回調査	就職情報収集に関する特別調査
調査時期	2022年4月	2022年5月	2022年6月	2022年7月	2022年6月
回答者数	1,265人	1,213人	1,208人	1,207人	1,058人
理系全体	457人	456人	437人	445人	403人
機械・電気系	119人	122人	110人	119人	105人
情報系	72人	74人	64人	65人	58人
土木・建築系	44人	37人	37人	33人	35人
化学・農学・薬学系	113人	106人	105人	111人	105人

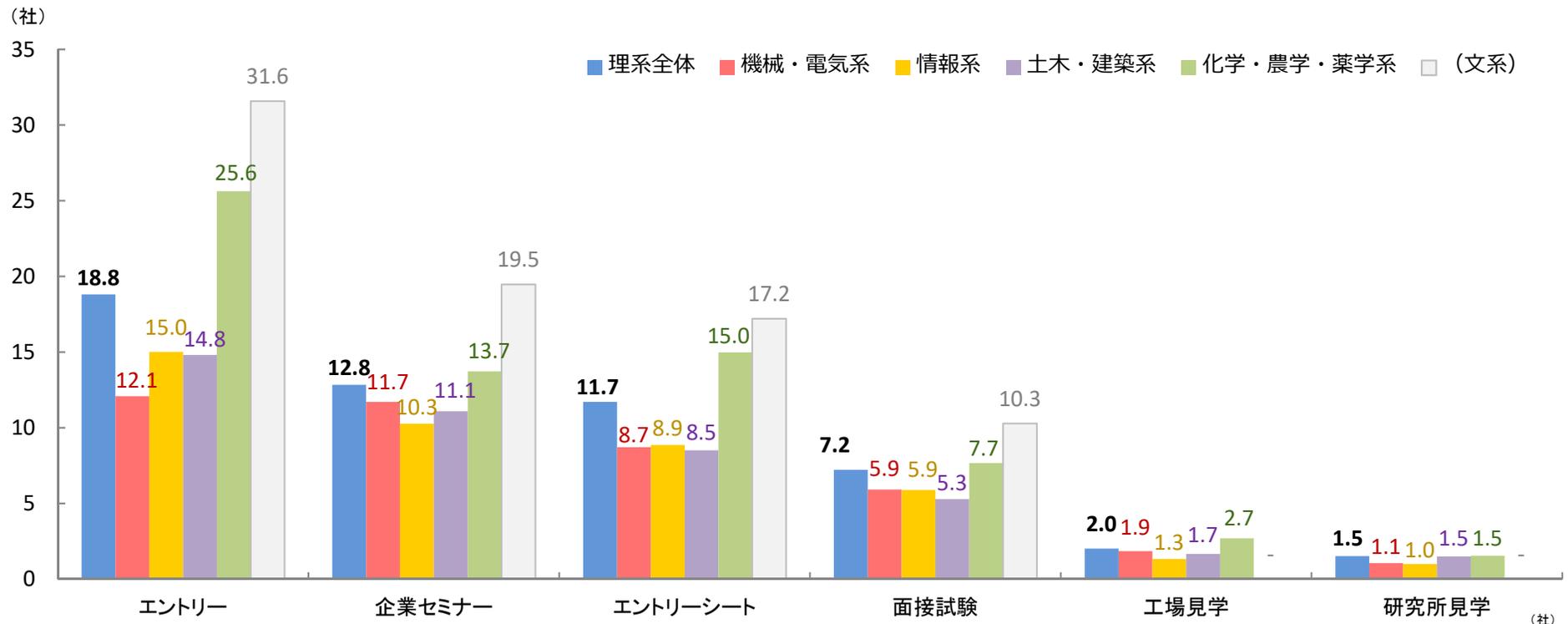
※上記以外の専攻系統も「理系全体」に含まれる。そのため、4専攻系統の人数の合計は「理系全体」と一致しない。

(モニター構成比 : %)



1. 就職活動量(平均社数/7月時点)

- 理系学生の活動量(社数)は、すべてのフェーズにおいて文系を下回り、企業を絞って活動する傾向が強い。
- 前年同期調査に比べ、エントリー社数、エントリーシート提出社数ともに、ほとんどの専攻分野でやや減少。
- 理系の中では、機械・電気系でエントリー数が少なく、最初から絞る傾向が見られる。化学・農学・薬学系は比較的活動量が多い。



【前年比較】

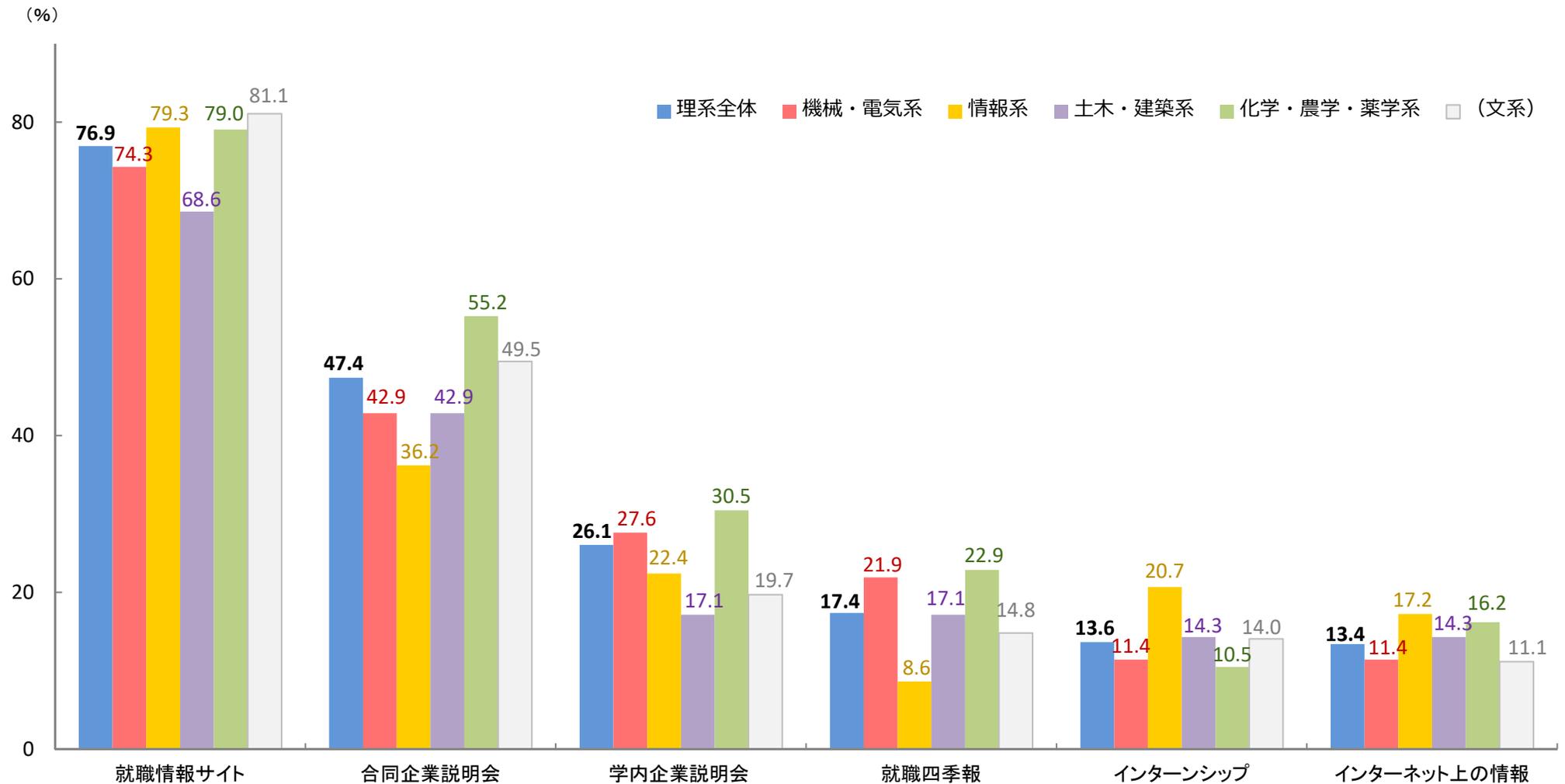
	エントリー		企業セミナー		エントリーシート		面接試験		工場見学		研究所見学	
	22年卒	23年卒	22年卒	23年卒	22年卒	23年卒	22年卒	23年卒	22年卒	23年卒	22年卒	23年卒
理系全体	19.6	18.8	11.2	12.8	12.0	11.7	6.7	7.2	1.7	2.0	1.6	1.5
機械・電気系	17.2	12.1	10.6	11.7	9.3	8.7	6.0	5.9	1.6	1.9	1.4	1.1
情報系	17.3	15.0	11.3	10.3	11.4	8.9	6.7	5.9	2.1	1.3	1.5	1.0
土木・建築系	20.0	14.8	9.0	11.1	9.6	8.5	6.1	5.3	2.5	1.7	2.0	1.5
化学・農学・薬学系	22.7	25.6	12.3	13.7	15.0	15.0	7.5	7.7	1.5	2.7	1.7	1.5
(文系)	34.9	31.6	19.1	19.5	19.1	17.2	10.8	10.3	-	-	-	-

※社数はそれぞれ受験者を分母に、平均社数を算出

*22年卒の工場見学と研究所見学は5月調査

2. 企業探しに有益な情報源

- いずれの属性も「就職情報サイト」が約7～8割で最多。次いで「合同企業説明会」が続く。
- 化学・農学・薬学系で「合同企業説明会」「学内企業説明会」が他の専攻分野より高く、説明会を出合いの場として活用。

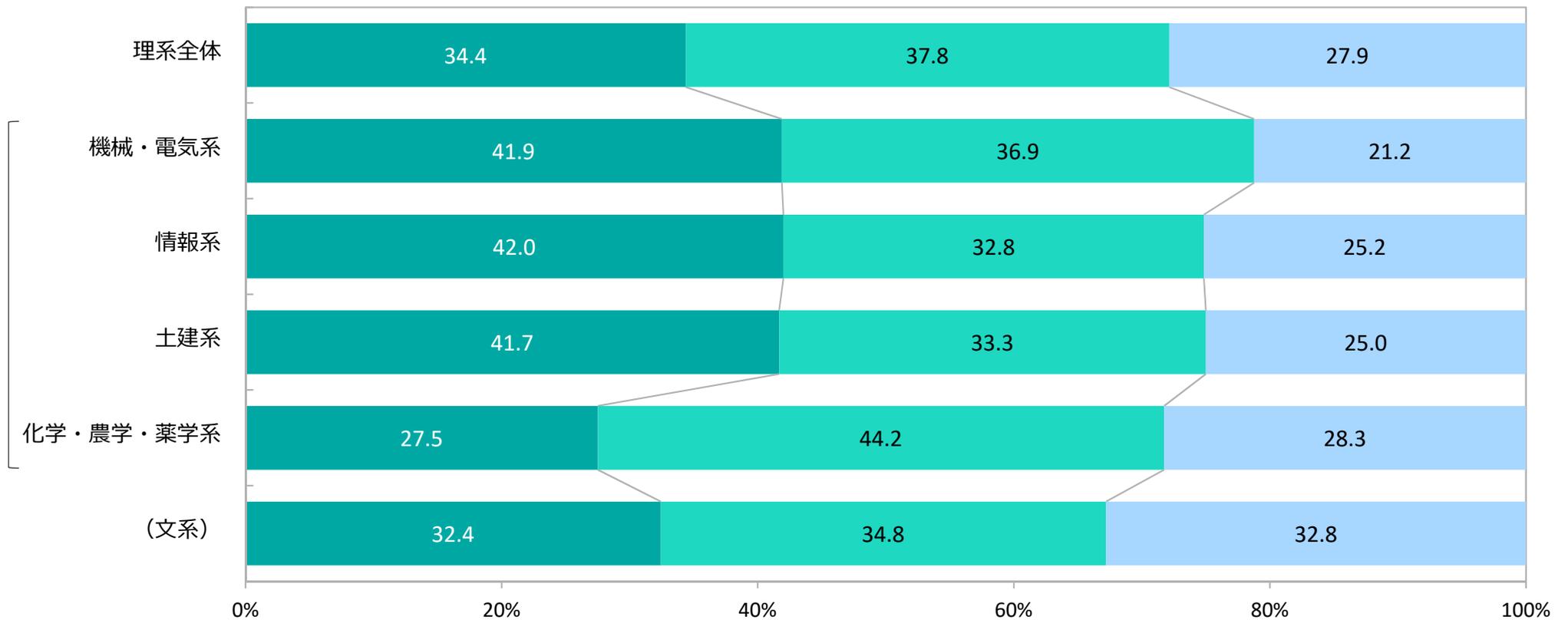


※オンライン形式を含む

3. 本選考に応募した企業の内訳

- 「インターンシップ等参加企業」と「2月以前から興味を持っていた企業」の合計が7割を超える(計72.2%)。文系は6割台(計67.2%)。
- 特に、機械・電気系でプレ期に出合ったり、興味を持った企業の占める割合が高い(計78.8%)。

- インターンシップ等のプログラムに参加した企業
- インターンシップ等には参加していないが、2月以前から興味を持っていた企業
- 3月以降に興味を持った企業



※ES提出など本選考に応募した企業の社数の内訳

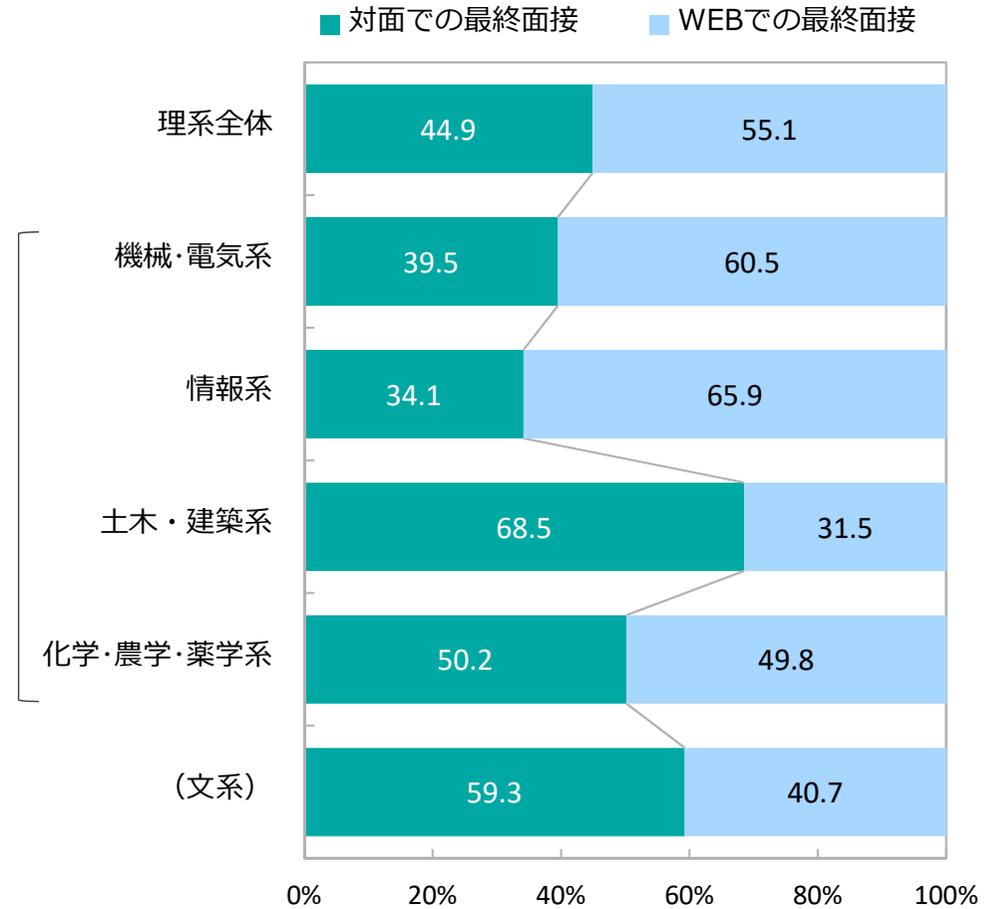
4. 面接形式（対面とWEBの比率）

- 自身が受けた面接試験全体の比率は、対面面接が2割(20.7%)で、WEB面接が8割(79.3%)。文系に比べWEB面接の比率が高め。中でも情報系学生でWEB面接の比率が高い(85.5%)。
- 土木・建築系は逆に対面面接の比率が高く(38.6%)、最終面接に限ると対面が7割近くを占める(68.5%)。

対面面接とWEB面接の割合

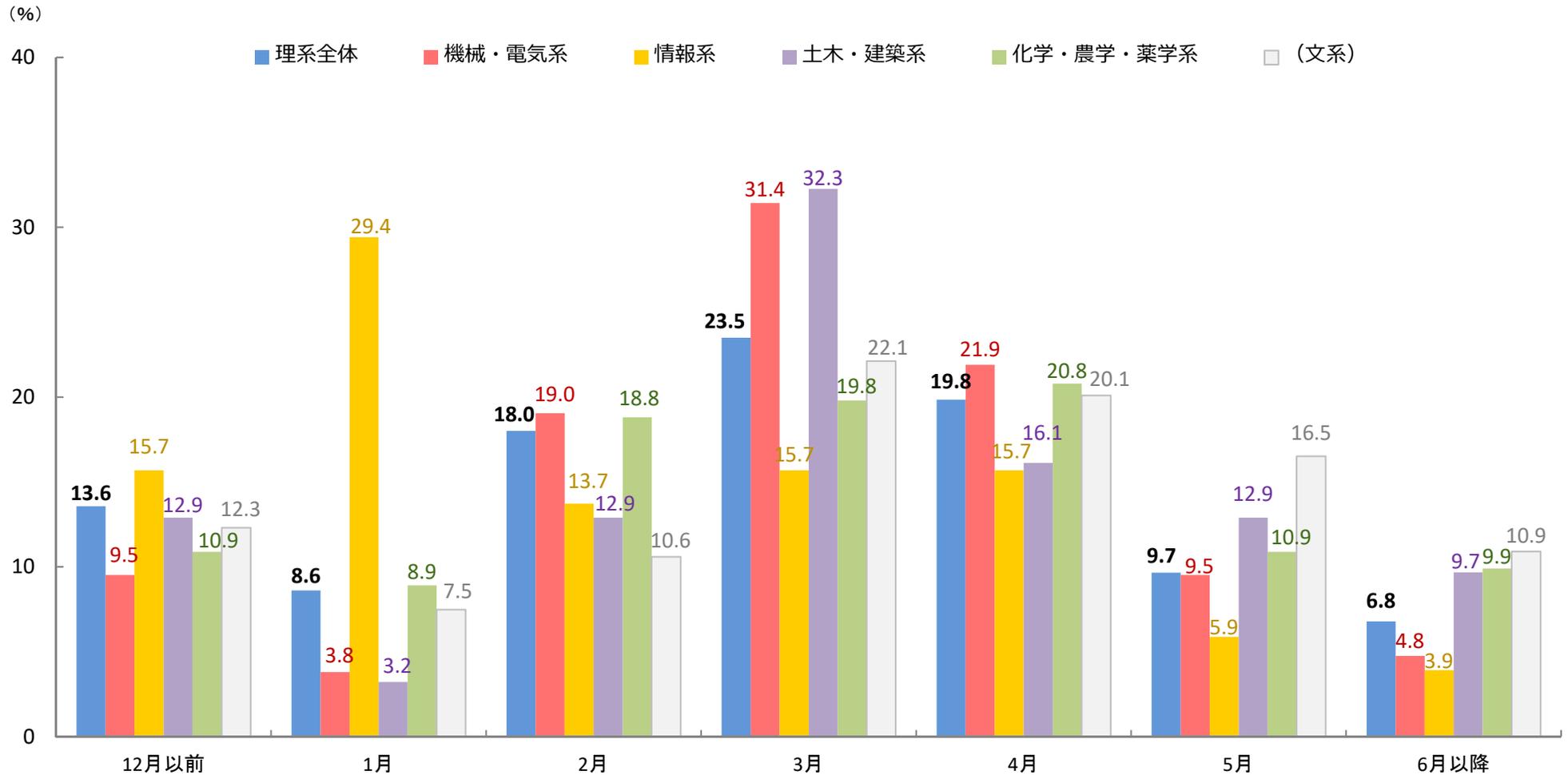


最終面接の受験形式



5. 初回内定時期

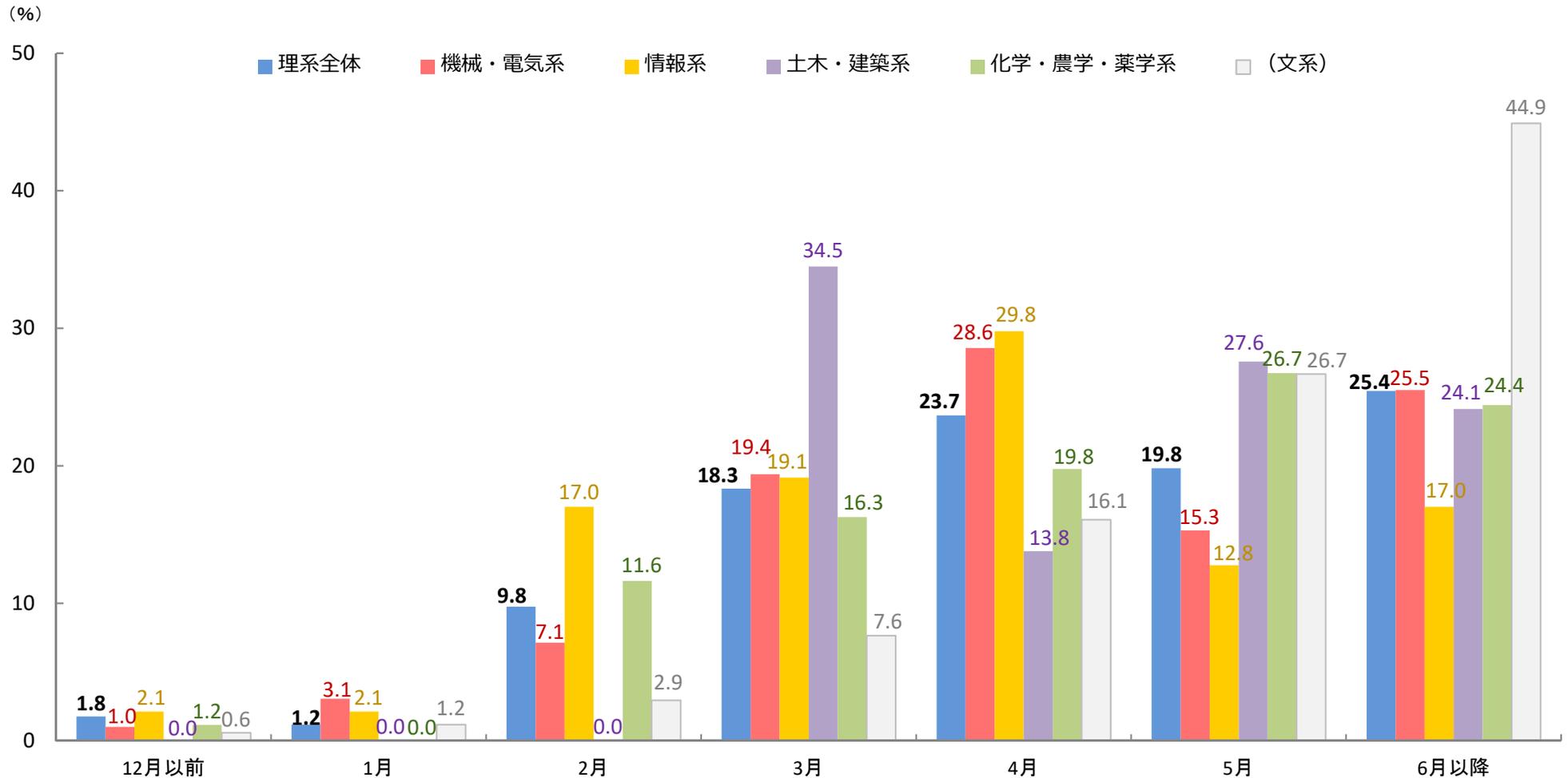
- 7月1日時点で内定を得ている学生に、初めて内定を得た時期を尋ねた。
- 理系は文系よりも早い時期の数字が高い。特に情報系学生は、12月以前が15.7%、1月が約3割(29.4%)など早期の内定獲得が目立つ。
- 機械・電気系と土木・建築系は3月が3割超で多く(31.4%、32.3%)、化学・農学・薬学系は時期が分散している。



※7月1日時点の内定取得者が回答

6. 就職先を決めて就活を終了した時期

- 文理で大きな差が見られる。理系は3月から2割前後が続き、早期に終了する学生も少なくないが、文系は6月以降に集中している(44.9%)。
- 土木・建築系は、初回内定と同様に3月に集中。機械・電気系は4月と6月以降に山が分かれている。情報系は4月が最多だが、採用広報開始前の2月までの終了者が2割を超える(計21.2%)。



※7月1日時点の就職先決定者が回答

7. 就職決定業界

- 機械・電気系学生の決定業界は、「電子・電機」と「自動車・輸送用機器」が同率で1位(16.3%)。メーカーを中心に幅広く分散している。
- 土木・建築系学生は「建設・住宅・不動産」(72.4%)に、情報系学生は「情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト」(40.4%)に集中。
- 「情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト」は情報系のみならず、他の専攻分野や文系でも上位に位置している。

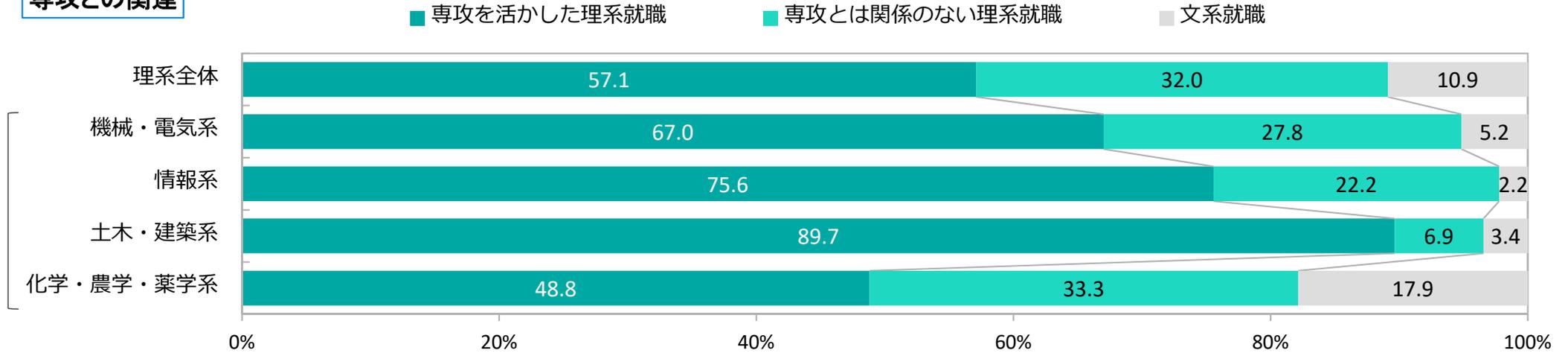
(%)

	理 系				(文 系)							
	機械・電気系		情報系		土木・建築系		化学・農学・薬学系					
1	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト	12.7	電子・電機	16.3	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト	40.4	建設・住宅・不動産	72.4	素材・化学	22.1	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト	13.5
2	電子・電機	10.1	自動車・輸送用機器	16.3	情報・インターネットサービス	12.8	エネルギー	10.3	医薬品・医療関連・化粧品	9.3	銀行	7.8
3	建設・住宅・不動産	9.5	機械・プラントエンジニアリング	13.3	電子・電機	8.5	調査・コンサルタント	6.9	水産・食品	9.3	建設・住宅・不動産	5.9
4	素材・化学	8.9	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト	8.2	通信関連	6.4	通信関連	3.4	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト	5.8	調査・コンサルタント	5.7
5	自動車・輸送用機器	8.0	エネルギー	6.1	素材・化学	4.3	運輸・倉庫	3.4	電子・電機	5.8	商社(専門)	5.5
6	機械・プラントエンジニアリング	5.6	精密機器・医療用機器	5.1	自動車・輸送用機器	4.3	印刷・パッケージ	3.4	エネルギー	5.8	運輸・倉庫	4.3
	エネルギー	5.6	素材・化学	4.1	調査・コンサルタント	4.3			自動車・輸送用機器	4.7	官公庁・団体	3.7
8	調査・コンサルタント	5.0	鉄鋼・非鉄・金属製品	4.1	人材サービス・人材紹介・人材派遣	4.3			電子・電機	4.7	電子・電機	3.5
									マスコミ		マスコミ	3.5

8. 就職決定職種、専攻分野との関連

- 理系全体の6割近く(57.1%)が、専攻を活かした理系就職であると回答。土木・建築系は約9割、情報系は7割台半ばに上る(89.7%、75.6%)。
- 決定職種は、土木・建築系学生は「建築・土木設計系」、情報系学生は「IT系」が7割を超え、専攻分野に集中している。
- 「IT系」職種は土木・建築系を除く専攻分野で3位以内に入り、幅広い分野の学生に進路として選ばれていることがわかる。

専攻との関連



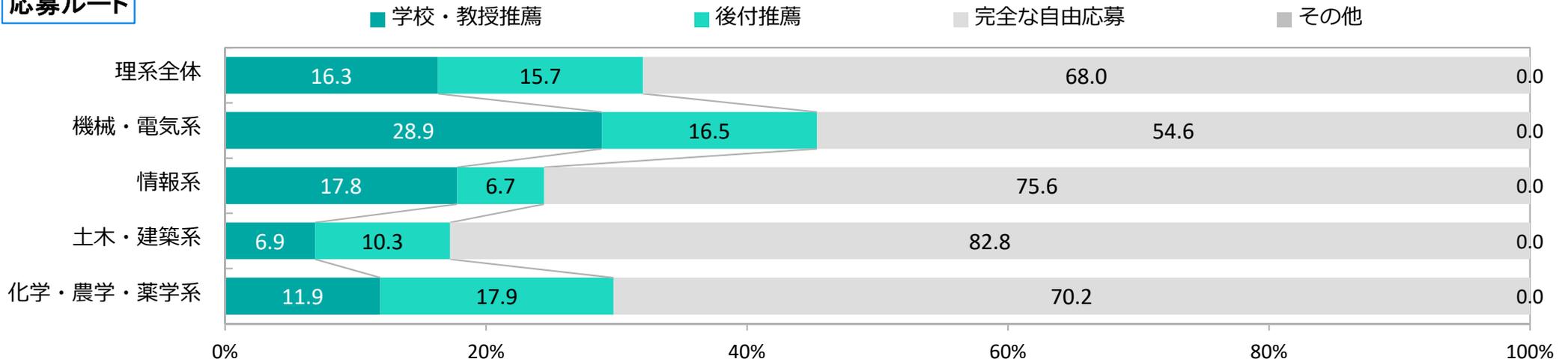
就職決定職種

順位	理系					(文系)	
	研究・開発・設計系	機械・電気系	情報系	土木・建築系	化学・農学・薬学系	営業系	事務・管理系
1	39.5	研究・開発・設計系 62.5	IT系 77.8	建築・土木設計系 72.0	研究・開発・設計系 47.3	営業系 36.6	
2	IT系 24.7	IT系 13.6	研究・開発・設計系 8.9	研究・開発・設計系 8.0	生産・製造・品質管理系 16.2	事務・管理系 17.8	
3	生産・製造・品質管理系 10.2	生産・製造・品質管理系 12.5	専門・スペシャリスト系 6.7	専門・スペシャリスト系 8.0	IT系 13.5	IT系 16.9	
				営業系 8.0			

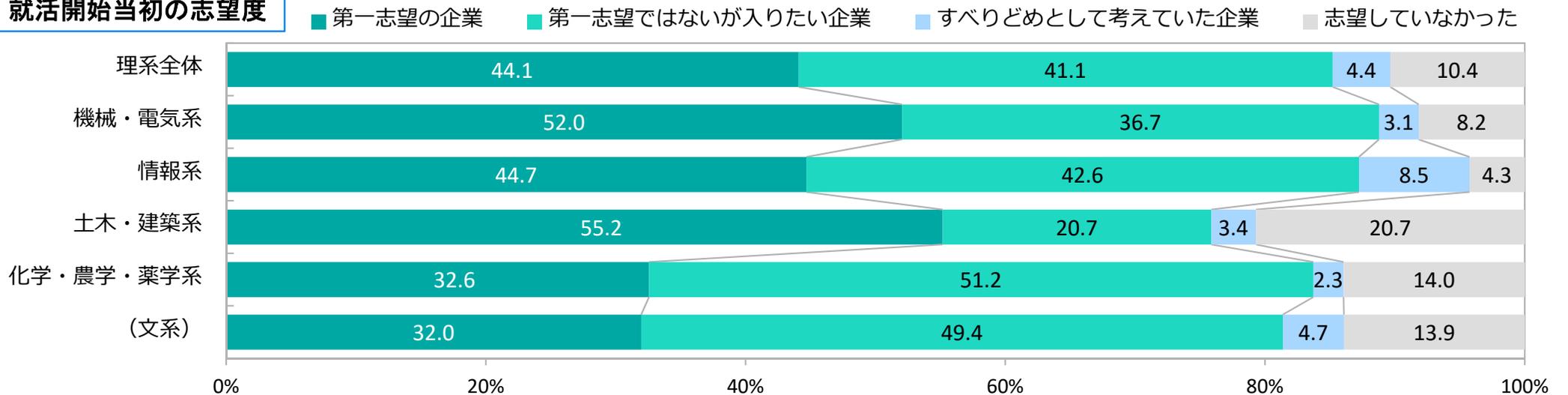
9. 就職決定企業への応募ルート、当初志望度

- 機械・電気系は「学校・教授推薦」での就職決定者が比較的多く、約3割(28.9%)。第一志望企業に決定した割合も比較的高い(52.0%)。
- 土木・建築系は「自由応募」が多いが(82.8%)、第一志望への決定割合が高い(55.2%)。専攻により活動スタイルに違いが見られる。

応募ルート

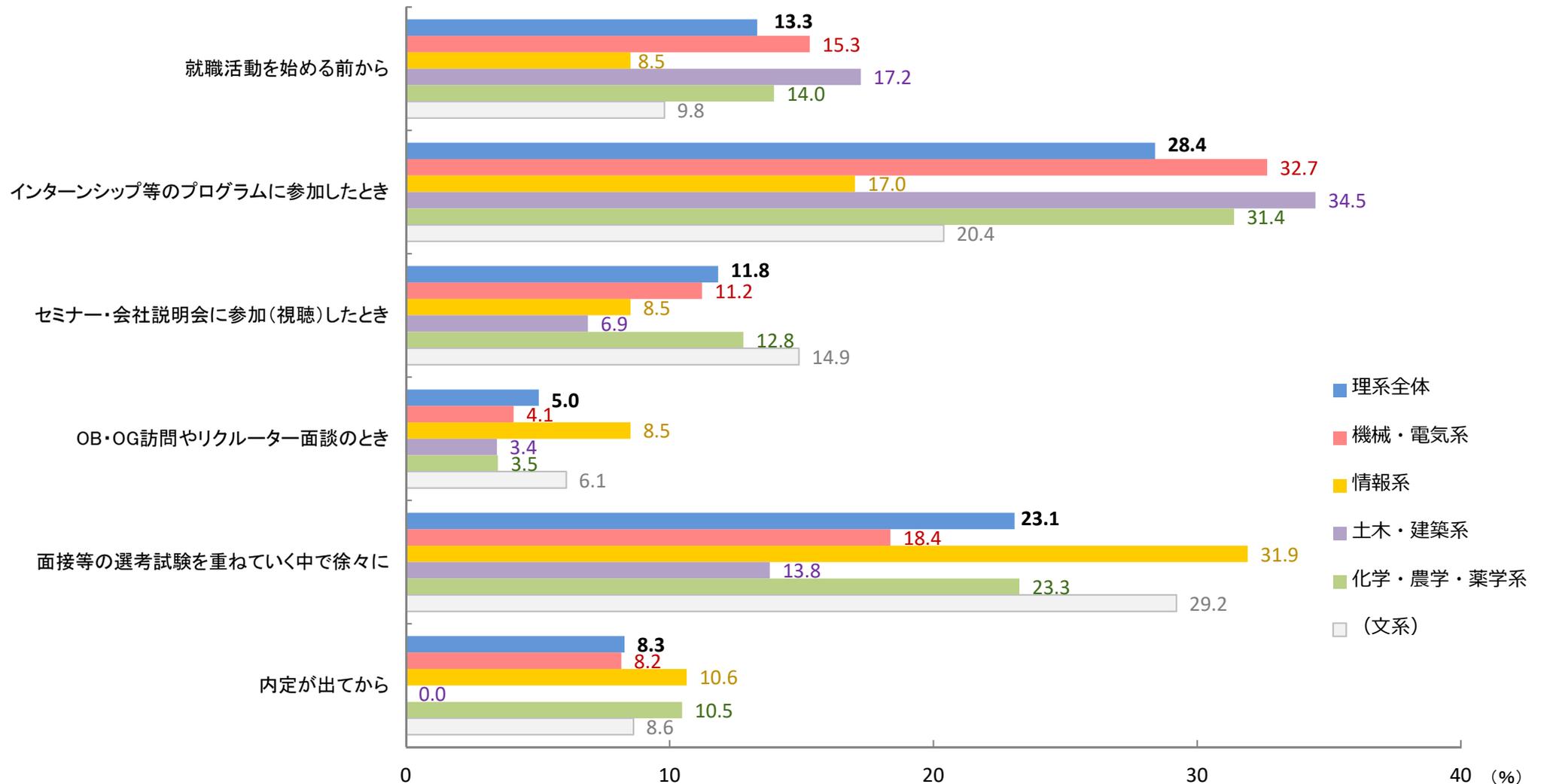


就活開始当初の志望度



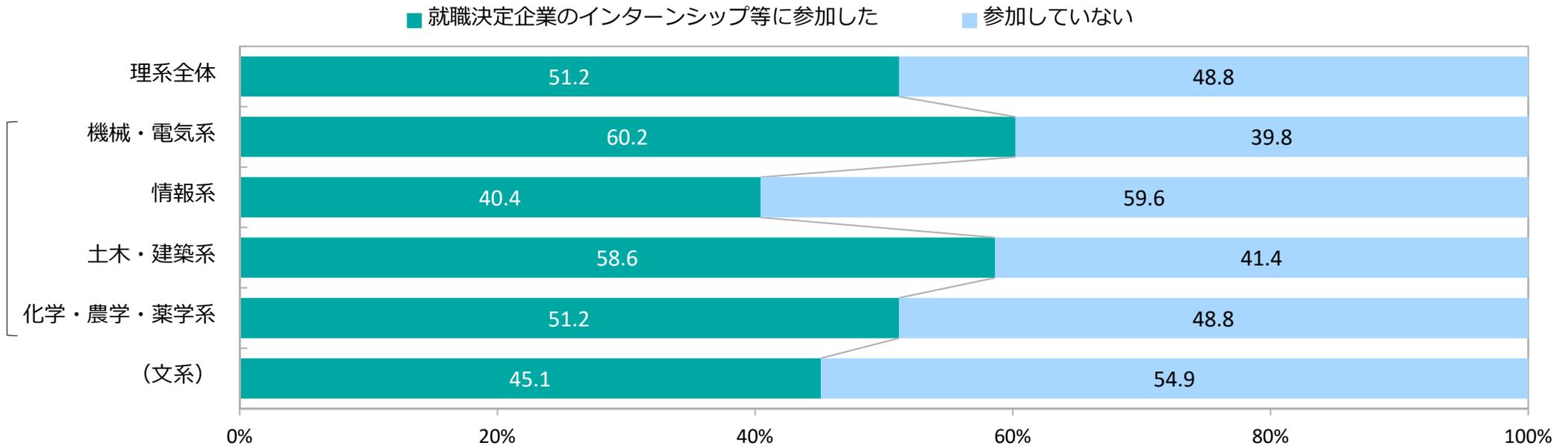
10. 就職決定企業で働きたいと思ったタイミング

- 理系全体では「インターンシップ等のプログラムに参加したとき」が最多(28.4%)。特に、土木・建築系で高い(34.5%)。
- 情報系学生は、「選考を重ねていく中で徐々に」が高く、「インターンシップ等」が低いなど、文系学生に近い傾向を示している。



11. 就職決定企業のインターンシップ等参加状況

- 理系学生の半数が、就職決定企業のインターンシップ等に参加していた(51.2%)。機械・電気系、土木・建築系で6割前後と高く(60.2%、58.6%)、情報系学生は低め(40.4%)。
- 理系は文系に比べ、複数日程のプログラムに参加していた割合が高い。中でも土木・建築系は、「5日間以上」が3割近い(29.4%)。



就職決定企業のインターンシップ等参加日数 (複数回答)

	理系					(文系)
	機械・電気系	情報系	土木・建築系	化学・農学・薬学系		
1日以内のプログラムに参加	56.6	57.9	47.1	56.8	72.6	
2~4日間のプログラムに参加	35.3	36.8	35.3	31.8	28.7	
5日間以上のプログラムに参加	14.5	15.8	29.4	11.4	7.0	

※就職決定企業のインターンシップ等に参加した学生を分母に、参加者の割合を算出

12. 就職決定企業に決めた理由

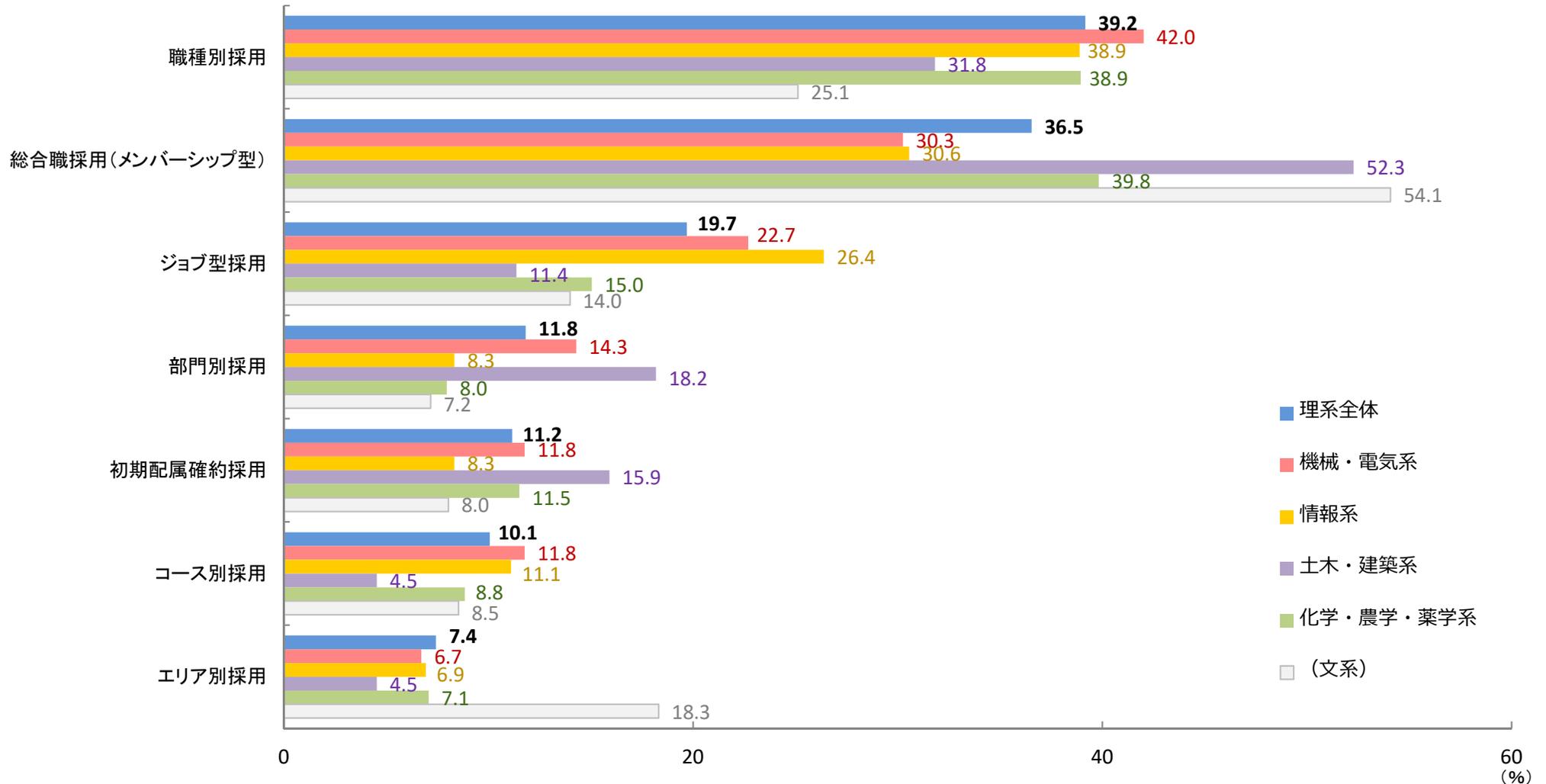
- 上位10位の顔ぶれに、専攻による差はほとんど見られない。
- 文系理系ともに、1位は「給与・待遇が良い」。専攻分野別では、機械・電気系と情報系で「有名企業である」の順位が高い。土木・建築系は「社会貢献度が高い」が最多で、化学・農学・薬学系は「給与・待遇が良い」と「社会貢献度が高い」が同率1位。

※5つまで選択 (%)

	理 系					(文 系)	
		機械・電気系	情報系	土木・建築系	化学・農学・薬学系		
1	給与・待遇が良い 32.8	将来性がある 37.8	給与・待遇が良い 36.2	社会貢献度が高い 41.4	給与・待遇が良い 32.6	給与・待遇が良い 29.0	
2	将来性がある 27.2	有名企業である 32.7	有名企業である 31.9	仕事内容が魅力的 37.9	社会貢献度が高い 32.6	社会貢献度が高い 28.8	
3	大企業である 26.6	給与・待遇が良い 31.6	希望の勤務地で働ける 27.7	専攻・資格が活かせる 31.0	福利厚生が充実している 30.2	将来性がある 24.7	
4	社会貢献度が高い 25.7	大企業である 29.6	大企業である 23.4	大企業である 27.6	希望の勤務地で働ける 26.7	有名企業である 24.1	
5	有名企業である 25.7	業界内の順位が高い 28.6	仕事内容が魅力的 23.4	希望の勤務地で働ける 27.6	仕事内容が魅力的 26.7	職場の雰囲気が良い 24.1	
6	希望の勤務地で働ける 25.7	社会貢献度が高い 24.5	将来性がある 19.1	将来性がある 24.1	大企業である 23.3	仕事内容が魅力的 23.9	
7	仕事内容が魅力的 25.1	希望の勤務地で働ける 22.4	教育・研修制度が充実している 19.1	給与・待遇が良い 20.7	世の中への影響力が大きい 23.3	福利厚生が充実している 23.1	
8	福利厚生が充実している 22.5	世の中への影響力が大きい 22.4	職場の雰囲気が良い 17.0	有名企業である 20.7	有名企業である 22.1	希望の勤務地で働ける 22.9	
9	業界内の順位が高い 19.8	仕事内容が魅力的 21.4	業績・財務状況が良い 17.0	福利厚生が充実している 20.7	業界内の順位が高い 22.1	大企業である 21.0	
10	世の中への影響力が大きい 19.5	製品・サービスの質が高い 19.4	優秀な人材が多い 17.0	業界内の順位が高い 20.7	将来性がある 20.9	世の中への影響力が大きい 19.6	
				希望の職種に就ける 20.7			
				企業理念に共感できる 20.7			

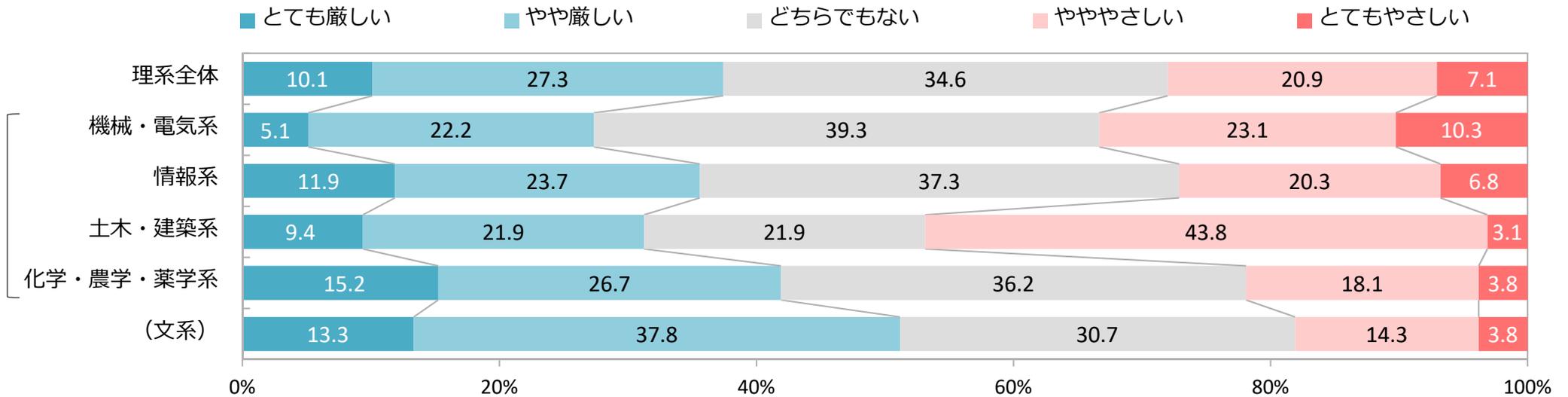
13. 魅力を感じる採用形態

- 理系全体で最も高いのは「職種別採用」(39.2%)で、文系学生(25.1%)を大きく上回る。特に機械・電気系で高い(42.0%)。
- 次点の「総合職採用(メンバーシップ型)」は専攻によるばらつきが大きく、土木・建築系で高く、機械・電気系や情報系学生は低め。機械・電気系、情報系学生は「ジョブ型採用」が比較的高い。



14. 就職活動の難易度

- 自身の就職活動を「厳しい」と感じる理系学生は計37.4%で、「やさしい」(計28.0%)を上回る。但し、文系に比べれば難易度は低い。
- 機械・電気系と土木・建築系は、「やさしい」が「厳しい」を上回った。第一志望の企業に内定した割合が高いこと(11ページ)や、インターンシップ等参加企業に内定していること(13ページ)などと相関が見られる。



[Voice] 理系学生の声

- 早めの行動が大事だと感じた。周りを見ても、しっかり準備してきた人が早々に内定し終了している。
- 企業を選ばなければ、学生に優位かもしれないが、本当に行きたい企業にマッチングできるわけではない。
- 大手企業に関しては倍率が高く、まったく楽に感じなかった。
- 製造業を志望する理系、特に院生に限定して言うと、大企業でも引く手数多であると感じる。
- 業界によって就職難易度にかかなりの差があるように感じた。
- インターンシップで決まるといっても過言ではないと感じました。
- 学校推薦のおかげでスムーズに進めた。

- <機械・電気系/男子>
- <情報系/男子>
- <化学・農学・薬学系/女子>
- <機械・電気系/男子>
- <土木・建築系/男子>
- <化学・農学・薬学系/男子>
- <機械・電気系/女子>